



許官日新通志

一至三 明治元年十至十一月

西垣文庫

文庫 10

7359



明治紀元戊辰冬十月

官日新通志 第一

許



持 文庫10
7359

西田文庫

日新通志第一

慶應四戊辰年之條

○新谷藩宮脇小源太建白

道德内^{とくとう}に積^{つみ}む光輝外^{こうき}に溢^{あふ}る夫^{それ}敬^{よこ}ひ道德を積^{つみ}の大本
多^{おほ}く恭^こしく惟^{ただ}る小^こ今^{いま}や海内有力の列藩各自^{それぞれ}伊尹^{いゐん}
周公の心を以^{もつ}て心と

皇室を翼載^{よくさ}し皇運を挽回^{ばんくわん}し奉^{ほう}る

陛下も亦赫然^{げくぜん}□興^{おこ}し給^{たま}ひ

崇神天皇以来^{すめみま}

皇室盛時の大規模を恢復^{きびが}し

日新通志第一

躬親少萬機の太政を総へ
皇徳と光輝一万国を制服せしめ玉ふ盛意よ付
て八百廢悉く舉り旧弊咸か除き清明の運は□
く遺才をも簡擇を輿論をも聽聞一博く天下
の公義を盡させ玉ふの
聖旨實は朝陽始て青天は昇るの勢ひ天下の人咸
み目と拭ふて一新の徳化を景仰一奉る処を然
る邊土の遠き億兆の衆も自然風化の抄らび
難きより

聖旨と誤り認め尚異教を奉る者有る於る
ハ國家の大患是より又滋蔓一竟は
聖旨の障碍とありん然るは天下後世の大患ハ
惟此異教あり故に更始一新の運に當り能く民心
を主として死生不移の教と立民の方向を定る異
教と拒ぎ給事實は今日の要務は在せらるる古へ
佛と信するもの我邦有恩之國神と舍る無縁乃
梵鬼と奉り頭と剃人倫と絶り彼ら衣と服一彼
の教法と主張して我固有の風俗教法と廢を

其害久くして愈甚し近頃又洋人東海に至るが
此二十余年其間既に洋風小化し髪と被と彼ら
衣と服し彼ら教法を主張して我固有の風俗教
法と清むるもの往々是あり佛と云い洋と云い其此は
至る所以のものは我國と主とするの教ありは近世の
鎖國して外國と交らざれば此は眼の着るものなきを
是非ありと事なり共今より後ハ海外諸國と交通
するの時あれば最も先ツ此主教と立ち我邦人を
心よ主あはしめ外國の風俗教法は眩惑せざらん

我邦の風俗教法を以て外國を壓倒せんと昔より
外交せざるの向來外國と並立して國等の交とを
為しかつ況や慕ふる小國を以て彼と服屬せ
しむる事更は難かる夫の洋人の如きは万国と交
る故に早く此は眼と着て嚴に教を立ち人心を主わ
しむるに依る万国は交はれ共他邦の風俗と倣
し異域の教法と崇奉する者一人もなく皆能く己
の國の風俗教法を守り刺へ是を以て他邦と變化
せんことを其教の嚴志の大なる事かくの如し故に

彼能く万国を横行して威焰益熾なり我邦人の彼
り如此く嚴敬とする志ある事と解せんと却て彼ら風
俗教法と艶美し是は倣倣し是を崇奉して我ら固
有の風俗教法と厭ふ斯く淺露あるもの多きは終に
我ら全國の民衆と被り社と尤く彼ら臣妾とあり至
ん斯成行てい今日遠大の
聖旨も終に空しくあせ玉らん事と恐る已に西國
の邪教寺と建耶穌教と弘め下民多く惑はるる惑
ひ徒黨して政府の命とも用ひざるに至ると聞故に

異教を拒くの方の主教ありて主教を立るの今日の急
務ある事を知食玉ふべし夫異教の利を以て導く故に
人をして迷ひ易し是を以て一度これ迷へり利を得る事
心の終ある之を為し固有の性を暗まされ君父を遺れ
法律を背き只其教を奉ると是と自ら不義不
孝に陥る覺へざるあり但し洋教の旨趣は耶穌を以て
大君大父と現在の君父と小君小父とを故に現在の君
父を背く共耶穌の教を背くは忠孝の道全くと
云其教へを弘むる人々其好む如く隨て其心を誘惑

一以^レ其教^ニ皈^ス向^セし其術^ノ詭巧^{ナル}事^ニ惡^ム
 一^レ恐^ルる^ガ我^ノ教^ハ義^ヲ以^テ導^ク故^ニ人^ニ是^ヲ曉^レ
 一^レ然^レ共^ニ人^ニ度^ニ是^ヲ曉^レ知^ル相^ノあ^リて行^ヒ正^ス
 一^レ利^ノ為^ニ回^リず害^ノ為^ニ破^スとよく旧物^ヲ守^ル
 一^レ君^父と先^ニて國家^ノ難^ニ徇^フとよく由^テ觀^ス
 一^レ彼^ノ教^ト我^ノ教^ト正^ニ相反^スとる^{ナリ}故^ニ異^ノ教^ヲ拒^ム
 一^レ其^ノ惟^ニ我^ノ主^ノ教^ニ有^ル事^ヲ知^リ玉^ス夫^レ古^ハ
 佛^ニ惑^ム者^{佛^ニ利^{アル}事^ヲ知^ルと}害^{アル}事^ヲ知^ラ
 一^レ故^ニ我^ノ教^法と舍^テ其^ノ教^法と主^張と今^ノ洋^ニ

惑^ム者^{佛^ニ利^{アル}事^ヲ知^ルと}害^{アル}事^ヲ知^ラ故^ニ
 一^レ又^ニ我^ノ教^法と舍^テ其^ノ教^法と主^張と至^ル凡^ノ異^ノ域^ノ
 一^レ事^ト雖^モ我^ノ利^{アル}者^ハ何^ノ事^ト速^ニ是^ヲ摸^倣
 一^レ取^用ゆ^ベク^シ共^ニ摸^倣の弊^ニ摸^倣と^ス者^モ摸^倣
 一^レす^ニ至^ル故^ニ是^ヲ取^リ用^ユゆ^ベク^シ其^ノ深^ク慮^リ給^ハべ^キ
 一^レ唯^ニ衣^服冠^履ハ我^ノ國^ノ風^俗の眼^目ナ^リ我^ノ邦^ハ我^ノ邦^ノ
 一^レ風^俗ありて我^ノ邦^ナラ^ズ然^ル今^ノ異^ノ域^ノの衣^服冠^履
 一^レ輕^便ありて其^ノ制^ト其^ノ終^取り用^ヒ我^ノ制^度と悉^ク廢^ス
 一^レす^ハ所謂^ニ被^髮尨^社の俗^トあり夷^ノ為^ニ變^ゼる^者

開闢以來我

君臣の困苦艱難

神州を保護する所以のものは此に至人事を懼ま

故に時勢小應し古今を斟酌し我邦の制を立異

域と殊列する是國家の要務なり然るも斯く夷狄

を凌せしむる海外諸國の笑と取り却て愧

辱と四海を曝とるものにして我

神州の威徳の異域に光耀する事ありんや且ツ夫の

洋人の陽を和親し陰を并吞の策あり然るも彼兵理

長びるものなり兵と擧て城邑を攻むる術を以て

民心と改む其意我全國の民心と奪ひ戦はざるは是と

并吞せんと欲す故に癸丑以來彼と交る事愈深し民

心と奪はる事益甚し民心と奪はるる民は主心あり

由る民は主心あり國は主教あり由るは國は主

教あり民は主心あり彼を百方作為し我民を誑惑

と雖も豈彼の術中を陷らんや抑主教の旨趣及

と故に此を畧す

と故に此を畧すと施すの教意を盛らすあり夫

風俗を淬勵し材を長育するは教學に如くものなり

故に漢土に於て唐虞以降教學を盛らすは是を以て其

日新通志第一

風俗政教觀る可きもの多し又西洋諸國の如きも此
は眼と著け教學よカと用ひ學校の設け圖書の富
万國又超過を故多く材能の士と出し四海に歷遊し
其國利を興し其國教を弘む亦惟教學の盛なり
由るなり我國の如きも古への教學と重し特は平安遷
都の日も首として學校を興し學田と給し學徒と
増しカと此を用ひ給ひ天下材能の士日と逐て出
朝廷の規模是に隨ひ備り國威海外に震動し異域
多く服属を後來佛教風俗と汚し教學と清るより

國家多事干弋日繼

朝廷の已綱も廢弛して天下終る

皇室盛時の大規模と志を只家讐と報し私念を逞
して以て私と營と事として君臣相殺し父子相害し
自ら内地と衰弊し既し異域に加之如の威烈とも失ひ
境土として日盛らしは是教學の法育英の道廢絶
一人自ら剛懷粗暴に陥て遠大畧を立てる事不能
由る故に當時の人と見るに多くの識量狹少にして事業
亦纖微なり今より後願くは此旧習を除き宿惑を解

き以て大事業志一區々の土地項々の推勢と争ひ
自内_く内地と衰弊する事と止め

聖旨と體認一積怨とも去り元惡とも宥め各相和

平□本と同心一徳以

皇室と奉戴扶翼一々内文徳と修め外武備と嚴

一内外完固の勢を以て材能と選ひ船艦と発一四

海々國々歴遊一徳と以て遠人を懐け義と以て醜夷を

服さしめい

皇室盛時の洪範偉業斯と擧り海外諸國又我

神州は服属

朝貢をへし嗚呼今より後り我

神州人々者此大義と覺悟せと尚家讐私怨と抱

自内_く内地と擾

聖旨の障礙とする者ハ神人共とそれ是と罰辱せん

今や

王政日新の時博く天下の輿論公議とも聴聞

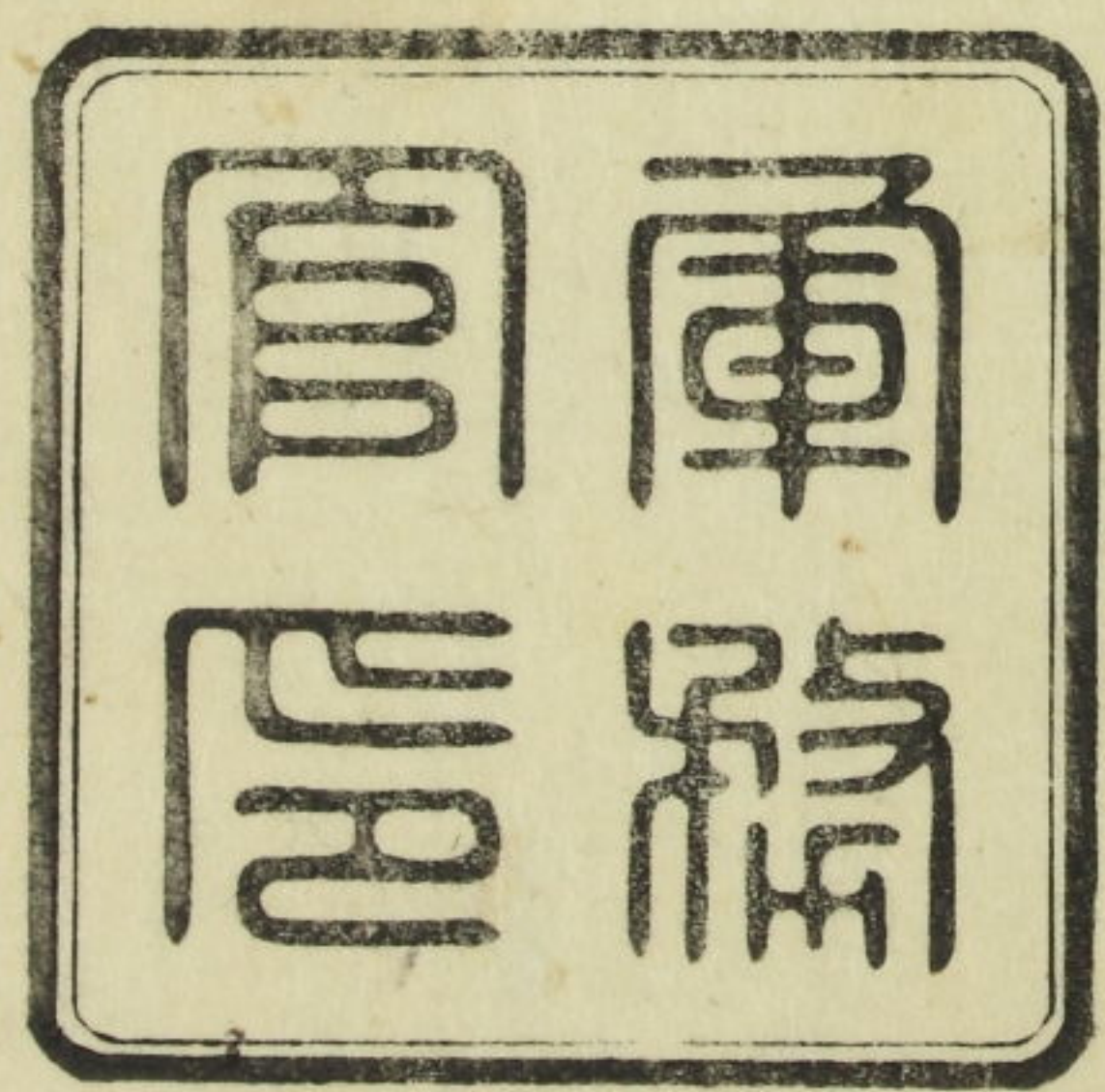
玉ふの盛事實と感激欽仰と堪へ以固より犬馬の分

層淺の識國家の事と於て豈敢て擬議する事と得

人亦何の裨補^ひ有らん然りと雖も
上帝俯察^{ふさう}の盛時^{せいじ}は負^{おそ}りん事と是畏^{おそ}れを敢^あて微衷^{ひちゆう}と
吐露^{とろ}して以て野人^{やじん}の献^{けん}斧^{きんぼ}は倣^{あや}ふ狂妄^{きやうぼう}頑魯^{こんろ}言^いととら
と知ら^しるを死罪^{しざい}々々頓首^{とんすう}々々謹言^{きんげん}

辰四月

官版
不許
翻刻



御用御書物所
京師

著屋幸七
俵屋徳太郎

明治紀元戊辰冬十月

許官
日新通志
第二

日新通志第二

慶應三丁卯歲之條

○三月九日於金澤物頭以上不時登城

宰相殿直筆而被仰出

近來不容易形勢相成候（其）以來中納言

樣段々被仰出候趣（其）有之就中西洋親傳之利

器取用方之儀（其）付文久度被仰出候趣（其）有之

候如其後又々時勢變遷種々御熟考之趣（其）家督

之砌厚被仰會候御次第（其）有之方々火術盛之

世と相成候（其）付昨年諸士一同筋入銃相用儀申

出候其後上京之節 上様御親喻拜聽致候如
斯不容易世態と相成候儀其本全外夷
神州と覬覦致し夷狄之輕蔑と招き彼に致さ
るゝ處有之より向來天下之動搖及候儀に付
於當今ハ
皇國之武威と御振起宇内之強國と相成外國
とも可制様よ參候得バ 御國內之人心自ら
居合可申との御深念誠よ以御至當之御儀方
々之急務此外よ有之間敷と存候就夫尚又勘

考之上於當家よ今般軍制充畧銃練編制之儀
申出候然る如重大之事業で急々所調場合よも
至兼先以當坐之如申出候儀も左之候以段相
心得家中一同江も可申聞置事

三月

慶寧

今般軍制令充畧之趣意別紙よ申出候通し并
銃練編制申附候付てハ指向候新流之炮術迫立
候ハ劔鎗之儀ハ
本朝之重器よ候得ハ人道之大本よ候得共殊

更不怠可然修行儀ハ今更申迄も無之方々和
漢西洋之兵書をも博く研究有之度候且又此
度勝利供連方等簡易輕便之儀申出候ハ平生
之事と成限り相欠力と武備の爲可用自己之
任勝手後前々之家中作法とも紛乱候てハ大
此度之意と相違候条等之如聊心得違無之様
被レ存候御事も冗費と省き武備充實候様心
掛三州之全力と以實防之成切念願之外無他
事右ニ付存慮有之人より無泥可申聞候竊

三月

宰相慶寧

批判致候と此方江不申聞様之儀有之候と畢
竟人の疑惑と生候基と其不本意之事と候
右等之趣尚又爲心得申聞置候条家中一同
可被申渡候

○四侯より幕府江建白

天下之太政ハ公明正大之至理と盡一時世の當
内外緩急之辨と明御施行無却坐候難被行

儀勿論^儀候全^儀財不可救之今日^儀至^儀候根由^儀と推
窮仕候得^儀候乍^儀憚幕府^儀年来^儀之御失體^儀より釀
出候内誠^儀防長再誅^儀之御一舉^儀より物議沸騰^儀天
下離叛^儀之姿^儀相及候次第^儀御坐候依之明白^儀至當
之筋^儀と以防長御所置^儀可為急務^儀兵庫開港^儀防長事
件^儀大^儀寛急^儀先後^儀之順序^儀有之段^儀合之上^儀屢建
言仕候儀^儀と篤^儀と退考仕候^儀如右區別^儀太^儀以曲直當
否^儀之分^儀被為立却^儀及正^儀之御實跡^儀顯^儀ると不顯^儀と相
拘^儀り候事^儀付^儀虚心^儀と以却^儀及察^儀被為在候^儀様奉

願候二件

朝廷可被^儀為合奏^儀拜承仕候得共
皇國御安危^儀關係仕候^儀是是非非^儀至公至大^儀之道^儀と
以私權^儀と被^儀扱治^儀久^儀之大策^儀被為立候^儀様有^儀御坐度
重大^儀之事柄^儀難^儀默止^儀再考^儀之趣^儀言上仕候^儀誠惶敬白

五月

越前
薩州
土州
宇和島

○朝廷江四侯より建白

兵庫開港防長所置之二件ハ當時不容易御大事と
 奉存候全體幕府防長再討之妄舉無名之師と動
 一兵威と以て壓倒可致心積之處全 奏功ニ不至
 天下之騷乱と引出候次第故各藩人心離叛物議相
 起候時宜_し御坐候就_す即今被為立國基候急務ハ
 公明正大之御所置と以_て天下_ニ不被為臨候_てハ
 一圓治り不相附防長之儀ハ大膳父子官位復旧
 平定之御沙汰_ニ相成幕府反正之實跡相立候儀

第一と相心得申候間判然明白實跡相頭候上天下人
 心始_て安堵可仕候得共第二兵庫開港時務相當之
 御所置被為在順序と得未一同
 勅問對答不仕内前文二件順序區別と以_て幕府江
 屢申出置候處一昨廿四日防長之儀ハ寛大之所置
 可取計兵庫開港之儀ハ當節上京之四藩も同様
 申上候間誠ニ不被為止御差許_し相成候云々
 御沙汰之御書附拜見仕實以意外之次第不堪驚
 愕仕合御坐候段

朝廷却沙汰之儀容易可奉申上候筋しん無之甚
恐懼之至奉存候得共

皇國重大之事件事實相違之儀まじわ黙止罷在候場合あやま
無御坐候間不得止一應奉伺上候以上

五月廿六日

越前 薩州 土州 宇和島

殿下公江

官許不許翻刻

御用御書物所京師

麩屋町三條上上ル 七
同姉小路上ル 俵屋德太郎

明治紀元戊辰冬十月

官 許
日新通志 第三

日新通志第三

慶應三丁卯歲之條

○於紀州和歌山論定書

一方今本藩專らとて此術と學ひ夷情と探り國
 威と張り戰爭之實地と踏ん事と要と然るに因備
 之如きありて其洋俗の陋習と非と一或は建言して
 國風と不失事と希さむとも因備六十余州封内の
 士庶技を以て西洋銃隊と壓すべしと落着決定して
 建言する者も非ど銃隊區々嚴炮して止むる時を
 國技施す地ありて彼も興廢存亡の巷は居る

日新通志第三

何ぞ洞察せざるべらんや去き共人情節義を以て
する時ハ一日片時洋人之陋習ニ化せしむる小至ニ忍
びざるも固より有之節義也而して薩長及び土州の
士庶も專洋術を講し洋情を探り然して唱ふる
所ハ益勤 王之説ハ國威と張るの策略歟將夷
情と知らざるハ義ハ制する事不能鎖すありらんぞ
開港の益ありきと思ふ益

王室之為ニ強勉する歟俯して思ひ仰て察するも
関東洋術と修練し洋風ニ化してより幕府威令

行とも既に代長之諸藩畏る鋒と交る者ハ本藩
及び井伊柳原戸田福山等ハ過以爰と以て視る時ハ
諸藩長州ハ服従有る事ハ何れも
朝廷攘夷と唱へさせ玉ひく夫が為天下策許之名士
と戮し終ハ節を折る開港と
勅許し玉ひ幕府人情反して太政委任の節を折
て洋風ニ化せしむる如し列國も又國初以來恩澤
浴とる節を折る幕府の令を用ひざるありて皆天地
之道理也去きども技藝十倍する小成して信ぜざる不

廢すは洋人之陋習と云ども戰場の利便は於ては
 彼にせむんば有べし去の夷術の学ぶる夷情の
 探るべし其俗は於ての毛髪も動くべし然る
 今普天之物價沸騰して米粟乏しくかきずして飢
 餓は臨み寒氣肌を犯さばして寒く蒼生塗炭に落
 る苦痛云べし然る民の司杖として唯今全く計
 のを要して天下静謐を計らざるが所謂私情は
 して公誼といひ難く諸藩も服すべし然る天
 下之静謐諸藩の服するは一點之私情を捨て公然

君臣の道明らうありて蒼生の塗炭を救はる
 彼薩長の勤 王の如きの衆人不信信でされハ千年
 と盡すといふも天下其功あるべし諸藩は君と
 幕府と佐奉るの君臣の情をり幕府の君と
 王室と奉崇し玉ふの君臣の情あり方々幕府の
 王室と奉崇し玉ふ所を衆人の心より敬して遠ざ
 くらと思ふも欵故に人情離散するありん其敬
 て遠ざらうと思ふ所以の夷術を知らされの夷と
 制するに足らず蜜情を知らされの蜜膽を破るに至

ウズレバ自然幕府相將大夫士洋風ニ化セリ内と
外トシテ外と内トシテ風俗と革あらたメ去いル
夷情と探るべし夷術と學ぶべし風俗ハ革あらたメ
勤 王之實行ニ國力と盡つくル天下の威權本藩
ニ歸かへリ佐幕之功全まラズ

卯三月

○水戸脱藩之士より備前侯江建白

謹こつ而奉申上候兵庫開港之儀ハ於
先帝深被為おぼ惱

宸ちん慮候御次第も彼為おぼ在候如
陵土相乾候御間も無な今度幕府ニ而御建白相
成候ニ付縉紳家始諸藩議論相起リ一体之人心
不居合ニ御坐候尤時勢無余儀御譯柄あとハ恐察仕
候得共打續うちつシ内地之擾乱御鎮定相成兼諸藩
觀望仕候折柄右之儀強而御施行せ相成候てハ
如何様之時ト及候共難計不容易儀い過慮
苦心罷在候畢竟我々共京都御守衛仕候も乍
不及烈公様御遺志遵奉仕

朝幕之間江御報效申上候心得罷在候得共
 御國許も被遊御承知御通之始末にて何分國力
 と以天下江相伸候儀周旋不相成切齒痛心仕候
 復之念朝暮難忘是迄隱忍罷在候事御坐候得
 共右様諸人之口實又相繋り御安危ニ及候重大の支
 件拱手黙止居候て如何と恐入奉存候ニ付犯愚
 踰分之至と奉存候得共一紗存慮申述候ニ付鈴
 木縫殿より先般尊公因州様御上京被遊
 朝幕之御間御都合宜人心安定仕候儀御周旋

被為在候様仕度奉歎願候處御賢慮之旨内々
 奉伺一紗に於ても難有感佩御上京之程奉俟望
 罷在候處追々外諸藩ハ被致上京種々風評も有
 之形勢も差迫り候砌御羽翼之御親藩方々御
 上京被為成御遷延候り幕府ハ全孤立之御姿ニ
 て諸方之輕悔と被為招候様可相成旁不堪苦
 心罷在候得共重役始夫々説諭御坐候ニ付忍隱
 罷在候如追々之形勢ニ而存詰候情實難黙止
 尊公因州様御儀ハ格別之御家柄ニ付罷出歎願

仕候せんちゆう稽踰之段へ誠まこと以もつ恐入奉存候得共くわく區々
愚衷ぐしゆう篤とくと御酌取ごしやくと御憐察ごれんさつ被下置不日あす被遊御
癸駕みづが候様仕度奉主願もとのたま候此段不願おそれ恐奉言上ごんご候
恐惶おそ誓首百拜謹言

小寄合

卯五月

菊池藤之進

今頼健 勇

大起中之進

西野昇 三

官許不許翻刻

御用御書物所京師

麩屋町三條上ル

著屋幸 七

同姉小路上ル俵屋徳太郎

